

▼ダウノマイシン静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】ダウノルピシン塩酸塩 (U) daunorubicin hydrochloride 【分類】抗悪性腫瘍剤 [アントラサイクリン系]

【単位】▼20mg/V

【常用量】0.4~1.0mg/kg/日を連日あるいは隔日に3~5回静脈内又は点滴静注し、約1週間の観察期間をおき、投与を反復する

【用法】■静注■10mLの生食で溶解

【透析患者への投与方法】Scr 3mg/dLを超える患者では50%に減量 (U)

【その他の報告】減量の必要なし (12)

【PD】減量の必要なし (12)

【CRRT】減量の必要なし (12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】副作用が強くあらわれるおそれがあるため腎障害患者には慎重投与 (1)

【その他の報告】Scr 3mg/dLを超える患者では50%に減量 (U) 腎機能低下時でも減量の必要なし (12)

【特徴】アントラサイクリン系抗悪性腫瘍抗生物質で、急性白血病に適用される。細胞の核酸合成過程に作用し直接DNAと結合しDNA合成とDNA依存RNA合成反応を阻害する。

【主な副作用・毒性】心筋障害、心不全、骨髄抑制、ショック、ネフローゼ症候群、頻脈、発熱、肝機能障害、口内炎、悪心・嘔吐、脱毛、倦怠感、頭痛、悪寒など。尿中排泄により尿が赤色になることがある。

【安全性に関する情報】総投与量が25mg/kgを超えると重篤な心筋障害を起こすことが多くなる (1)

【代謝】肝で速やかに活性代謝物ダウノルピシノールになり、さらに肝で代謝される (1,U)

【排泄】尿中回収率 11.8%、未変化体 6.3%、ダウノルピシノール 5.3% [iv, 24hr まで] (1) 主に胆汁中に排泄されるが、高度に腸肝循環する [ラット] (1) 尿中に活性体として 25%排泄 (U,11)

【CL】177±59L/hr [iv] (1)

【t1/2】α相 15.8hr (1) 分布相 45min, 消失相 18.5hr, 活性体 26.7hr (U,11)

【蛋白結合率】資料なし (1,12)

【Vd】38L/kg (1) 広範に分布, BBBはお通過しない (U) 1725L/m² (11) データなし (12)

【MW】563.98

【透析性】資料なし (1) Vdが大きく、少なくとも効率的には除去されないと思われる (5)

【O/W 係数】LogP=-1.3 [1-オクタノール/水系, pH6.0] (1) 【pKa】10.3 (11)

【相互作用】心毒性、骨髄抑制の増強に注意 (1)

【肝障害患者への投与方法】T-Bil 1.2~3mg/dL : 75%に減量, T-Bil 3mg/dL を超える : 50%に減量 (U)

【更新日】20170417

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。